

野の仏ギヤラリー⑧

普賢菩薩坐像

東多久町高德寺

光背・坐像・蓮華台が一体化して造られています。光背には頭光が彫られ、頭上の宝冠には五つの円があります。童顔で口元を引き締めています。左手に蓮を持ち、右手は人差し指と中指を合わせ外反させています。普賢とは普く賢いの意味で、理知を備えた菩薩です。
銘「普賢菩薩 古賀区 松岡一雄」



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

○菩薩は、本来、悟りを開く前の修行中の者を称します。
○五つの円は五つの知恵(仏)を象徴するものと考えられます。
○近くに「十三佛建立記念」と刻まれた碑文があり、昭和七年五月に建立されたことが分かります。

今月の論語

佞人は殆し

口先だけじゃうずな人は信用がしにくい。

今月の福宅放送は、東原岸舎東部校9年の笠原大輔さんです

教育長コラム

ちよっとい話



「親ってえらいなあ」

その4人兄弟は、毎朝遠い通学路を仲良く元気に歩いてきた。学校行事やPTA行事に協力的だったその母親との会話から、朝は両親とも不在であることがわかった。朝食について尋ねると、「自分のことは自分でさせる」とのこと。

両親は夜が開ける前に牛の世話に出る。暗い中50キ口離れた所で餌となる草を刈ることもある。母は、その前にご飯とみそ汁を準備して行く。子は、起きてきた順に、籠に伏せてある茶碗をとって自分でご飯とみそ汁を用意して食べる。そして、上の子は下の子の世話をしながら登校していた。

「昼の行事は、仕事を少し抜け出し必ず参加している」とも話してくれた。そばにいない詫びの気持ちが届められているようだった。素晴らしき子育ての姿に感激した。

教育長 田原優子

市民文芸

◆全国の吟士集まる会場に
新人の吾は畏れつつ座す
浦野 嘉恵

◆鮮やかな心の詩が聞こえるよ
君との明日を約束にして
野崎 隆幸

◆散策のわれを和ます石路の
黄色の輝き道を照らしおり
梶原恵美子

◆日にいく度眼鏡を捜しケイタイを
捜す過程を吾は寂しむ
川浪 信子

◆人間を心から愛した日本人
二人次々と世を去る寂し
尾形 節子

◆小面の切れ長の目に冬日落つ
おおやはな
中嶋 清子

◆呼道に足踏み入れし露時雨
武富 律子

◆無精なる吾の遅るる冬支度
本村 則子

◆七五三やんちゃ息子のすまし顔
倉成 皓二

◆暖かい心が集うボランティア
西山 残月

◆彼岸より手招く友の数増し
中尾 和弘

◆五線譜をはみ出すタクト妻が振り
三塩不二子

◆権力に忬度でしたあの事業
高塚チカ子

◆勝ち抜いた原動力はワンチーム
田中正春

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《互選》

川柳 《多久川柳会 互選》